

キティ・カジャナ（米国がん協会(ACS) NCD プログラムマネージャー）



米国がん協会(ACS)と国際対がん連合(UICC)へ兼務後、NCD アライアンス (NCDA)に出向。歴史的な NCD に関する国連ハイレベルミーティングに向け NCDA のアドボカシーマネージャーとして、NCDA に代表される市民団体と国連ミッション及び諸機関との橋渡しを担当する。また、NCDA の代表として欧州、アフリカ、南米の WHO や全米保健機構(PAHO)の会議にも出席。2005 年 8 月より ACS のグローバルヘルスコミュニケーションチームで勤務。88ヶ国以上で 900 人以上の学生のトレーニングをする ACS での能力開発プログラムのマネージャーも務める。出身はアルバニアで、米国には 15 年間在住。サウスカロライナ大学にて生物科学及びスペイン語の学士を、エモリー大学にてグローバル・ヘルスに特化した公衆衛生の修士を取得。

リー・マナスコ（リブストロング財団 地域連携・教育担当）

財団でのトレーニング・教育プログラムを監督。彼女のキャリアは、クイズノス(世界中で 5,000 以上のレストランを展開するサンドイッチ・チェーン)でのトレーニングに始まる。クイズノス在職中は、レストラン経営や地元店舗のマーケティング、金融システムに重点を置いた何百ものセッションを作成、促進した。2009 年、非営利セクターに転職し、そこで諸機関やアドボケートが、がんとの闘いにおける能力やスキルを構築するための手助けをすべく自身のスキルを活用している。テキサスのオースティン在住。テネシー州メンフィスのローズ大学にて英語学学士を取得。彼女の信条は、ジミー・バフェットの「どんなときもより良くなる」、「本物のバーベキューはいつでもポーク」、「キャンサー・サバイバーは世界を変えることができる」である。



レベッカ・シア（リブストロング財団 国際プログラム プログラムマネージャー）



キャンサー・サバイバーのために、根拠に基づいた新プログラムを開発しながら、リブストロング財団国際プログラムを監督。2009 年より、南米、アフリカ、アジアにて、がん症状の削減や、サバイバーがアドボケートになるための支援に重点を置いた 6 つのプログラムを立ち上げるべく、財団のグローバルビジョンを指揮する。UCLA にてマスコミに関する学士を、コロンビア大学にて政治・経済における国際情勢に関する修士を取得。リブストロング財団の前には、公的機関、民間企業、非営利機関に勤務したことがあるが、彼女のキャリアの大半は、教育と国際開発に携わっている。東南アジアからサハラ以南アフリカまで、世界中に広がる貧困削減・HIV/AIDS などの問題に取り組むことに情熱を注いでいる。開発に関するキャリアは開発政策を手掛ける国連開発計画でのインターンに始まる。そこでは男女平等やグローバルに女性支援を促進するジェンダーチームの戦略をサポート。また、教師としてロサンゼルス州の低所得者コミュニティで生徒たちに行った多くのレッスンを、リブストロングでの業務に取り込んでいる。